

Anne of the Faculty of **Economics**

遺伝子工学への夢絶たれた青春の挫折

小さいころから、「将来の夢は？」と聞かれると「研究者になることです」と答えていました。小学2年生の時、兄が読んでいた『ニュートン』という雑誌の特集にあった「遺伝子工学」や「DNA」という記事に夢中になり、「遺伝子工学を研究する人になりたい！」そう決意したのです。

DNAは今でこそなじみのある言葉ですが、当時は最先端の学問領域。研究を行っている大学は少なく、ある大学の医学部ならそういった内容が学べることを知り、中学に進学するころには、その大学への進学がすっかり具体的な将来の夢になっていました。当時（今も）、日本で偏差値が1、2の難関校（学部）。大学受験で一発合格よりも内部進学の方が入れる確率が（特に女子は）高いことを知り、

新関 三希代

Mikiyo Niizeki

【研究テーマ】

ファイナンスの実証分析



その内部高校に進学しました。

「勉強マン」になっていた私は、高校3年の冬まで合格を信じて疑っていませんでした。しかし、結果はバツ。内部推薦の選考にもれてしまったのです。ショックのあまり1週間で8キロもやせ、生きる気力を無くしました。小学生からの夢が崩れ去ったのです。この世の終わりだと思いました。先生や両親が他の医学部への推薦、留学、他の学部への内部推薦、そして浪人等々、いろいろ考えてくれたのですが本人はやる気なし。結局、当時まだ珍しかった資格「公認会計士」を取得するよう助言を受け、内部進学で商学部に入学したのです。

しかし本人はまったくやる気なし、登校拒否状態でした。また、自分が勉強したかった理系の科目ではなく、大嫌いな文系科目を学ばなければならないと思うと憂うつで、語学の授業以外は一切大学に行っていませんでした。ところが、単位取得のためにテキストのみで勉強した「統計学」にはまったのです。一度も授業を受けたことがなかったので（なんと、今はその統計学の授業を教えています!）、テキストを書いた先生のゼミに入り、勉強することにしました。

「ブラウン運動」から「金融工学」へ

そこで出会ったのが「ブラウン運動」、それを金融に応用した「金融工学」という学問領域でした。ブラウン運動とは、空気や水の粒子が衝突することによって起こる不規則（ランダム）な運動のことで、植物学者のブラウン博士



によって発見されました。また、この動きはかの有名なアインシュタイン博士によって、熱運動する媒質の分子の不規則な衝突によって引き起こされることが示され、「熱伝導方程式」という理論式で記述されました。

「株」の動きもまさに池に浮かぶ粒子と同じで、ある一定方向に進んでいたとしても（たとえば上昇傾向）、その動きはランダムで、予測することができません。明日の株価がどうなるか、誰も断言できないのです。そこで、この不規則な株価の動きは、ブラウン運動や熱伝導方程式を応用して描かれるようになりました。

金融の分野に工学的な要素を組み込んだ学問、金融工学に「これは面白い！」と、DNA 以来の衝撃を受けました。また、新しいもの好きな私は、当時日本で市場が開設されたばかりの派生商品（株価指数先物やオプション）価格の分析に夢中になりました。これらは、ブラウン運動を用いた確率過程論の理論式で表すことができます。

誰もが、明日を信じるアンでいてほしい

結局「遺伝子工学」ではなく「金融工学」を通じて、経済学という分野で大学院に進学し、研究者になりました。医学部に落ちたことがわかった日を思い出すと、今でも食事がのどを通らなくなるほど胸が痛みます。でも負け惜しみではなく、「落ちてよかった。なぜなら今、幸せだから」と言えます。分野が違うにしろ、あこがれていた研究者の職に就くこともできたし、「教員」というおまけまで付いてきました。教壇に立つ気は毛頭なかったのですが、教え

て初めて、教えることの面白さを知りました。今では研究よりも教えることが大好き！それに、学生も大好き！活力がもらえます（一緒に遊んでくれるから？）！あるとき医学部に入っていて、果たして研究者や教員になれたでしょうか？

大好きで今までに6度以上読み返している本に、L.M. モンゴメリー作の『赤毛のアン』があります。その最後の部分（第38章）に「自分の未来は真っすぐに伸びた道のように思える。いつも先までずっと見通せる気がした。ところが今曲がり角に来た。曲がり角に来た先に何があるかわからない。でもきっと一番よいものに違いないと思う。アンは静かな幸福の花がその道にずっと咲き乱れていることを知っていた」といったような内容の箇所があります。私にはまだまだやりたいこと、夢があります。かなえるために努力はしていますが、挫折することもあるでしょう。でも、きっと明るい道が開けていると信じています。

